

令和8年度「“出張版” 議員と語る会」

参加団体を募集

丹波篠山市議会では、地域の枠を超えて市民の多種多様なご意見をお聴きするため、市内在住・在勤の方たちで構成されている団体（市民サークル、ボランティアグループ、農業グループ、保護者会や市内企業など：参加者5～10名）を対象に、市政に関する様々なテーマについて自由な意見交換を行う「議員と語る会」を実施しています。

「議員と語る会」の実施を希望される団体は、申込書と必要書類を議会事務局へご提出ください。詳細につきましては、市ホームページや議会事務局（079-552-6855）までお問合せください。

議員と語る会詳細について →



まらなみ

今年から広報広聴常任委員会となり、議会だよりの作成だけではなく議会報告会等の広聴の事業も委員会で担当することになりました。皆様からの貴重な意見を聴き、より良い議会を作っていける取組を展開していきます！（本多）

今年は市内で火災が相次ぎ、尊い命が失われる痛ましい出来事もありました。災害はいつ起こるか分かりません。ご家庭で避難場所や非常持ち出し品を確認し、日頃から地域で支え合える防災意識を高めていきたいものです。（岡）

いよいよ夏本番。熱中症は誰にでも起こり、「自分は大丈夫」と思っていた私も、実際に熱中症を経験したことがあります。のどが渇く前の水分補給と無理をしないことを心がけ、元気に夏を乗り切りましょう！（金崎）

議会広報誌に携わり早3か月。創る大変さと作り上げる思い、読む人の気持ちの交差する紙面を目指し、行く方向や見る方向が違う中でも、目にとめてもらえる広報を一步ずつワクワクしながら創っていければと思います。（桐村）

梅雨前線の活発化による連日の雨や台風で、黒豆畑は泥濘（ぬかるみ）状態です。厳しい環境下での定植作業に、農家さんは早くも「苦労豆」を実感中。ですが、この苦労の分だけ秋にはきっと立派な実をつけてくれるはずです。（野々村）

先月、梅田での篠山鳳鳴高校の阪神支部同窓会に参加した。今回も私の同期24回生が誰も居ない事に寂しさを覚えた。桂文珍師匠の大受けのスピーチの直後、私は指名され登壇となり、とてもやりにくく早々に降壇した。（安井）

今回の会議は9月に開催します。

【第127回 長月会議】

9月 3日(木) 本会議(第1日)
議案提案 他

9月16日(水) 本会議(第2日)
一般質問 他

9月17日(木) 本会議(第3日)
一般質問 他

9月18日(金) 本会議(予備日)
9月29日(火) 本会議(第4日)
委員長報告 他

◎いずれも午前9時30分開会予定。どうぞ傍聴にお越しください。なお、市のホームページ（ユーチューブ）でも本会議を中継します。また、市役所本庁舎（1階ロビー・4階議場前）に設置のモニターでも本会議の視聴が可能です（リアルタイムのみ）。※傍聴にあたり、託児を希望の方は開催日の2週間前まで、手話通訳を希望の方は開催日の4週間前までに議会事務局へご相談ください。※市議会だよりに対するご意見や感想は、下記までお寄せください。
TEL (079) 552-6855
FAX (079) 552-7104
gikai_div@city.sasayama.hyogo.jp

丹波篠山市議会だより 第120号
令和8年7月21日発行

編集・発行
丹波篠山市議会 広報広聴常任委員会
委員長：本多 紀元・副委員長：岡 圭子
委員：金崎 美和・委員：桐村 裕一
委員：野々村 康・委員：安井 博幸
〒669-2397 兵庫県丹波篠山市北新町41番地
TEL (079) 552-6855

丹波篠山市議会 検索

丹波篠山市議会だより No. 120 2026.8



■一般質問に14人登壇
■議会報告会の開催案内

P6～10

P11

作品紹介 ささようでは、児童生徒会を中心にみんなで出した言葉をつないでスローガンを決定しています。今年度は「輝け！63ミラクルスター ～みんなで新たなチャレンジ～」です。小学部が背景の色塗りで紺色の夜空を表現し、中学部は幼児・児童・生徒数に合わせて63枚の星をちりばめました。高等部はキラキラ輝く文字を担当し、一枚の大きな作品に仕上げました。今年度、校名を変更した「ささやま支援学校」のみんなで新たなチャレンジ！63人それぞれがキラキラと輝けるようにと思いを込めて表現しました。

議会報告会（前期）の報告 市民の声を行政へつなぐ ～主な情報提供と今後の整理～

令和8年5月の議会報告会では、各会場で出された意見のうち、市に伝えるべきと判断したものについては、市長・教育長へ情報提供しました。地域課題を「聴いて終わり」にせず、今後の委員会活動、一般質問、予算・決算審査につなげます。また、いただいた意見は、自治会長会理事・まちづくり協議会会長とも共有し、地域と行政をつなぐ材料として活用します。



市行政・教育委員会へ情報提供した主な内容

街路灯のLED化整備

蛍光灯の製造中止を見据え、街路灯のLED化更新計画、普及啓発、器具破損時を含む維持管理補助策が求められている。



JR篠山口駅周辺の整備

東口だけでなく西口も含めた駅全体の活性化、自由通路を単なる通路にとどめない賑わい空間としての利活用の提案があった。



道の駅の情報発信の強化

道の駅こんだ薬師温泉ぬくもりの郷について、コンセプトや完成イメージ、開業までのPRなど、具体的な情報発信の強化が必要である。



安全な通学路の確保

農道を通学路として利用する子どもから不安の声があり、街路灯の設置方法を含め、多角的な安全・安心対策の検討が求められている。



水無月（6月）会議で可決した主な条例改正



議案	議 題	内 容
52号	丹波篠山市公告式条例及び丹波篠山市財政状況の公表等に関する条例の一部を改正する条例	掲示場における閲覧実態や紙の使用量を踏まえ、市民への情報提供の利便性向上と行政事務の効率化を図るため、ホームページを軸とした掲示方法へ見直しを行う。
53号	丹波篠山市行政手続等における情報通信の技術の利用に関する条例の一部を改正する条例	行政手続のオンライン化を市民サービス向上に向けた取組事項の一つとして位置づけ、今年度から本格的に推進するため、所要の改正を行う。

議案	議 題	指定管理者
57号	丹波篠山市大山荘の里市民農園の指定管理者の指定について	「バイオマス丹波篠山×なちゅらるは一もに一市民農園管理運営協働事業体」（指定管理期間：令和8年10月1日～令和13年3月31日）

主な質疑

議案	質 疑	回 答
52号	ホームページ公表後も掲示板は残るのか。	ホームページを基本とするが、災害時等に備え掲示板にも残し引き続き掲示を行っていく。
53号	オンライン手続きの運用は各機関で異なるのか。	教育委員会も含め、各機関が事務の特性に応じ柔軟に運用できるようにする。
57号	指定管理候補者が選定された理由は何か。	有機農法の指導など市の農業方針と連携した運営や森林、獣害などの自主企画、地域団体との連携など幅広い提案を評価した。

令和8年5月13日～18日 市内3地区で開催

地域の声を聴き、市政へつなぐ



議会報告会（前期）の報告

市民に開かれた身近で信頼される議会、市民の負託に応えられる議会の実現を目指し、議会報告会を開催しました。直近の議会活動を報告するとともに、各地区のテーマに基づきワークショップ形式で意見交換を実施。参加者からいただいた課題や提案を整理し、必要な内容は市長・教育長へ情報提供しました。



開催概要 各会場のテーマと、参加者から出された主な意見

篠山地区 5月13日（水） 丹波篠山市民センター 参加者 17人（男性15人・女性2人）

テーマ | 中学校における部活動の地域展開について

主な意見・課題

- ・地域の受け皿への財政支援が必要
- ・保護者の金銭的負担や生活格差への配慮
- ・指導者の確保と質の担保、教員の労働環境
- ・平日と土日の連携、送迎・移動手段の確保
- ・大会参加のあり方、安全確保と責任の所在
- ・子ども自身の要望を聴く機会が不可欠

対策・解決策として出された意見

- ・地域展開に伴う保護者負担への補助
- ・生活困難世帯は公費で支える仕組み
- ・地域人材の掘り起こし、希望教員の兼業協力
- ・スクールバスや公共交通の活用
- ・スポーツ傷害保険、指導者と市の契約整理
- ・小学5・6年生も含めた意見聴取



多紀地区 5月14日（木） ハートピアセンター 参加者 18人（男性18人・女性0人）

テーマ | これからの地域医療と地域防災～将来世代につなぐため～



主な意見・課題

- ・有線放送の加入率低下、必要性で賛否が分かれる
- ・災害が少ない地域で危機感が薄い
- ・消防団員の高齢化、昼間不在、人員不足
- ・消防署の老朽化・狭隘、職員数不足への不安
- ・診療科の減少、通院手段の乏しさ
- ・ため池、砂防堰堤など基盤施設の老朽化

対策・解決策として出された意見

- ・有線放送の継続可否をアンケートで検討
- ・防災広報を強化し、住民の危機意識を高める
- ・女性団員の増加など消防団の人員確保
- ・消防署の建替え、職員増員を検討
- ・かかりつけ医が専門医につなぐ体制強化
- ・のりーなの利用促進、往診体制の実態調査

今田地区 5月18日（月） 今田まちづくりセンター 参加者 7人（男性5人・女性2人）

テーマ | 道の駅を活かした地域経済の活性化

主な意見・課題

- ・道の駅のコンセプトや完成イメージの共有不足
- ・国道からのアクセスが悪く、進入路が分かりにくい
- ・周辺飲食店は高価格帯・予約制・観光期の混雑
- ・子ども連れ向け食事や安心して遊べる場所が必要
- ・景観維持、草刈り、トイレを含む美化管理への不安
- ・駐車場から階段や坂が多く来客を見込めるか心配

対策・解決策として出された意見

- ・開業までのSNS宣伝やPR発信を強化
- ・丹波篠山の農産物を通年購入できる体制
- ・「山の中の目的地型道の駅」として差別化
- ・マルシェ、キッチンカー、季節観光との連携
- ・名物グルメ、ジビエ、市内産農産物メニューの検討
- ・自然体験、温泉、ふるさと公園を組み合わせた魅力づくり



政務活動費の公開

議員が市政に関する調査研究をするために必要な経費の一部として交付される政務活動費（令和7年度分）について公開します。本市では、会派及び会派無所属議員に対して、月額20,000円×当該会派の所属議員数が半期ごとに交付されます。

令和7年度政務活動費収支報告一覧

単位：円

会派名	青藍会	公明党	福祉と教育	日本維新の会 丹波篠山	無所属	無所属	無所属	無所属
所属議員	小島 政行 原田 豊彦 本多 紀元 荒木 礼子 大内 正博 稲山 悟	隅田 雅春 岡 圭子	向井 千尋 桐村 裕一	金崎 美和 降矢 杏奈	野々村 康	堀毛 宏章	前田えり子	渡辺 拓道
項目								
交付金額	1,440,000	480,000	480,000	480,000	240,000	240,000	240,000	240,000
研究研修費	39,600	20,846	147,816	218,320	0	0	66,620	0
調査旅費	1,013,219	62,840	33,779	58,622	0	0	0	0
資料作成費	0	0	0	0	0	0	0	0
資料購入費	0	0	0	0	0	0	0	165,990
広報費	174,867	136,410	119,559	99,990	0	240,000	0	0
広聴費	203,274	0	0	0	0	0	0	0
人件費	0	0	0	0	0	0	0	0
事務所費	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の経費	0	0	0	0	0	0	0	0
支出額	1,430,960	220,096	301,154	376,932	0	240,000	66,620	165,990
返還額	9,040	259,904	178,846	103,068	240,000	0	173,380	74,010

※安井博幸議員、上田英樹議員は政務活動費の申請はありませんので記載しておりません。
※政務活動費は年2回（6カ月分ずつ）に分けて会派及び会派無所属議員に対して交付され、年度末の精算で残額が生じた場合は、残額の全部を返還しています。
領収書等の関係資料については、市議会ホームページや議会事務局で閲覧できます。

政務活動費の使いみち

- 研究研修費：研究会及び研修会開催・参加のために要する経費
- 調査旅費：調査研究活動のための先進地調査又は現地調査に要する経費
- 資料作成費：調査研究その他活動のために必要な資料作成に要する経費
- 資料購入費：調査研究その他活動のために必要な図書、資料等の購入に要する経費
- 広報費：調査研究活動、議会活動、市政について住民に報告し、PRするために要する経費
- 広聴費：住民からの市政及び会派等の政策等に対する要望、意見を聴取するための会議等に要する経費
- 人件費：調査研究その他活動を補助する職員を雇用する経費
- 事務所費：調査研究その他活動に必要な事務所の設置、管理に要する経費
- その他の経費：上記以外の経費で調査研究その他活動に必要な経費

水無月会議で可決した補正予算

6月2日会議 6月25日会議



議案	議 題	主 な 内 容	補正額
61号	令和8年度丹波篠山市一般会計補正予算（第2号）	・西紀南の旧波多野邸改修の経費 ・国費による橋梁の点検費用の追加 ・こども誰でも通園制度の拡充の費用など	2億747万1千円
62号	令和8年度丹波篠山市国民健康保険特別会計補正予算（第1号）	今田診療所への医師派遣委託料を増額	123万円
63号	令和8年度丹波篠山市介護保険特別会計補正予算（第1号）	介護保険システムの改修費用	123万9千円

主な質疑

議案	事業名・補正額	質 疑	回 答
61号	学校環境支援事業 83万6千円	令和7年度まで実施していた青色防犯パトロールについて、令和8年度は予算削減を理由に廃止したが、復活することになった認識の変化は何か。	事業見直しの中で苦渋の決断であったが、教育委員会事務局での見回りを通じて、専門的な判断の必要性を改めて認識した。適切な専門性を有する方を任用することが望ましいと判断した。
61号	西紀支所費 6,749万2千円	旧波多野邸の改修について、どのような目的で活用するのか。使用の想定と、改修費の根拠となる「施設の位置づけ」を明確に示すべきではないか。	西紀南地区には地域のコミュニティセンターがなく、住民から整備の要望があった。若い世代から高齢者までが地域活動に活用できる拠点として、コミュニティセンターとしての利用を想定している。
61号	公園費 1,493万1千円	高木伐採の業務委託と王地山公園内の駐車場拡張や遊歩道の付替え、新ホテル進入路部分への舗装計画に伴う実施設計費の委託料の内訳は何か。	高木伐採業務として859万7千円、実施設計業務として633万4千円となっている。
62号	一般管理費 123万円	今田診療所の医師派遣委託料について、三田市民・済生会病院からの派遣となることで、従来の派遣単価の倍以上となる理由と算定根拠は何か。	従来の派遣はへき地拠点病院として補助金が入っていたが、三田市民・済生会病院では県立病院の医師派遣基準を準用しており、他の派遣先でも同額を提示されている。

令和8年6月25日

丹波篠山市議会

学校法人兵庫医科大学
ささやま医療センターへの感謝決議
（要約）

学校法人兵庫医科大学は、国立篠山病院から経営移譲を受け、今日まで28年9か月の長きにわたり地域医療の中核病院として多大な貢献を果たしてこられた。

ささやま医療センターでは、超高齢社会を見据えた先進的な地域医療の実践に取り組まれ、特に新型コロナウイルス感染症に際しては、先進的な医療介入体制を確立し、地域の医療崩壊を防ぐため献身的な努力を続けられた。

このたび、令和8年7月をもって医療法人社団みどり会へ経営が引き継がれることとなったが、学校法人兵庫医科大学及びささやま医療センターが築き上げてこられた地域医療への功績は誠に顕著である。

よって、丹波篠山市議会は、学校法人兵庫医科大学ささやま医療センターの長年にわたる地域医療への卓越した貢献に対し、市民を代表して深甚なる敬意と感謝の意を表するとともに、これまで同センターの発展と地域医療の充実に尽力されたすべての関係者に対し心から謝意を表する。



岡 圭子

1. 夏季期間における児童生徒の下校時間について 2. 介護する側される側双方に寄り添うケアについて



問1 猛暑による熱中症リスクから児童を守るため、夏季の低学年児童の下校時安全対策、地域の実情に合った地域交通の活用支援、学校間の連携について問う。

徒歩の通学距離が概ね2.5km以上で学校長が必要と判断した地区の児童を対象にバスを運行している。学校長において、地域事情や集団下校の状況、児童の実態等を踏まえ、柔軟な対応を行っている。また各学校においては、暑さ指数や熱中症アラートを参考として注意喚起等、それぞれの学校や地域に応じた工夫や配慮を行っている。今後も学校、保護者、地域と連携しながら、安全安心

な通学環境の確保に努めていきたい。

問2 認知症高齢者の増加や介護人材不足が進む中、介護する側される側双方に寄り添う「ユマニチュード」の技法についての機会を設けてはどうか。

これまでも同様の対応をされているが、今後は改めてユマニチュードが実践できる機会が持てるよう、介護・医療従事者や介護に関わる方々に実践動画等を活用した研修会などを提案していく。



大内 正博

1. 中東情勢による原材料不足と市民生活への影響について 2. 市道油井小野原線の橋梁部の整備について



問1 印刷物等について、インクや樹脂、溶液の不足による影響をどのように把握しているのか。

予断を許さない状況のため、関係機関との連携を密にして迅速かつ的確な情報収集と対応に努める。

日本の経済状況にあわせた行政努力が必要ではないか。
行政デジタル化の一環としてペーパーレス化の推進を掲げている。今後、電子決裁の導入等により更なる削減を図る。

今後も海外情勢によるごみ袋の不足が起り得ると考えるが対応は。

緊急対応として、市指定の他のごみ袋で代替え対応している。(6月末で対応終了) 6月から11月までの供給分は確保している。

問2 市道油井小野原線の休止となった経緯を問う。

当時、多額の事業費を要する一方、期待される効果や利用状況、他の事業との優先順位などを総合的に勘案した結果休止している。

災害時における国道の代替路として必要ではないか。
現時点では整備の優先度は低いと判断する。



向井 千尋

1. 食と農をつなげるオーガニック給食のさらなる推進を 2. 子どもの居場所、自習室の充実を



問1 本市が先進的に取り組む有機農業と食育の推進は、「地域の持続可能な食と農をつなぐ」というひとつのゴールに向かっている。学校園で行っているオーガニック給食を保育園、こども園にも取り入れてはどうか。

国は2050年までに耕地面積の25%を有機農業とする目標「みどりの食料システム戦略」を推進している。本市はこれに基づき、オーガニックビレッジ宣言を行い、有機農業面積の拡大に取り組んでいる。学校園での給食の有機野菜は7品目2000kgとなった。今後、保育園、こども園への有機野菜の導入も検討する。

問2 放課後の子どもたちが安心して過ごせる居場所や自習室を充実させていくべきではないか。昨今の猛暑による生活・学習環境の整備が必要である。神戸市が取り組む「まちなか自習室」を参考に本市においても公共施設を活用して自習室等の充実が必要ではないか。

現在、中央図書館、市民センター、篠山口駅の農村イノベーションラボは学生が無料で利用できる自習室がある。夏季は市内に「ひと涼み処」を設置している。神戸市が取り組む「こどものアンケート調査」を参考に本市でも子どもたちの意見を聞く方法を検討する。



隅田 雅春

1. スターリンクの導入を 2. 5歳児健診の開始を 3. 幼稚園3園統合の延期を



問1 スターリンクを導入してはどうか。

災害時における通信手段の確保は重要な課題と受け止めている。導入には、災害発生時の電源確保や優先設置箇所、平時における活用や維持管理など整理する必要がある。今後、調査研究を進める。



※スターリンク

アメリカ宇宙企業SpaceX社が提供する衛星インターネット通信サービス

問2 5歳児健診の導入について検討状況を問う。

令和10年度までに実施率100%とする目標を掲げている。本市では、令和9年度からの実施を目指したい。

問3 篠山、たまみず、岡野の公立3幼稚園統合の時期を再検討すべきでは。

既に保護者の皆様に統合にかかる説明会を進めてきた。現時点で統合時期を再検討することは難しいと考える。



安井 博幸

1. 電気自動車(EV)用急速充電の不便な丹波篠山で良いのか 2. 大規模山林火災への考え方は 3. 丹波篠山市発祥の桶ッ卓球普及のために



問1 国はEV用充電インフラを拡充する方針だが、なぜ市直営の急速充電は3月末で廃止となったのか。

EV用急速充電を市直営から民間事業者の設置へと担い手を移行する。この7月末までに申請を受け付ける。

道の駅こんだ薬師温泉に急速充電設備が必要では。
道の駅オープン後、利用者ニーズを踏まえ検討する。

問2 大規模山林火災への市としての対応は。

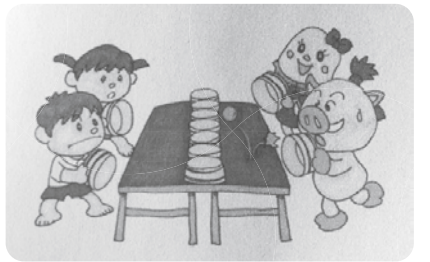
消防団と連携し、日頃からパトロールや山林専用消防器材の点検整備を行い、初期消火体制を強化している。防災ヘリによる空中消火との迅速な連携を行う。

問3 本年度も桶ッ卓球世界大会を開催するのか。

令和9年2月23日に第3回大会を開催する。

参加費の有料化で市の財政負担軽減を。

市と市体育振興会との共催で開催し、参加費をいただいている大会運営を予定している。



金崎 美和

1. 防犯カメラを活用した地域協力型防犯の推進 2. 学校に行きづらさを感じる子どもの保護者への支援強化



問1 市内防犯力向上のため民間事業者と連携体制を構築し、事業者への防犯カメラ設置補助制度の創設を。

地域団体による地域の見守りを目的とした防犯カメラとは性格が異なるため、今のところ拡充は考えていない。

認知症高齢者等位置探索サービス利用助成事業について、GPS機器の月額利用料補助を拡充してはどうか。

介護保険制度の動向も見守りつつ、検討していく。

問2 SNS等の活用など分かりやすい情報発信で、不登校児童生徒の保護者への支援強化を進めてはどうか。

匿名での電話相談に配慮し、適切な相談窓口が確認で

きるよう、リーフレットで紹介する。QRコードなどで工夫をして保護者向け案内文書の作成を検討していく。

「不登校・ひきこもり当事者家族会」市HPは内容が分かりにくいので、参加しやすく掲載する必要がある。

内容を再度検討して広く周知する。

校内サポートルームを全校設置し、パーテーションなどの環境整備を計画的に進めていく必要があるのでは。

設置されていない学校も居場所の確保に努めており、整備に関して各学校のニーズに合わせ検討していく。



1. 丹波篠山の素晴らしい眺望スペースの維持管理を！ 2. アライグマ等に対する獣がい対策の強化を！



問1 過去に多額の費用で整備された素晴らしい眺望スペースが、雑木の繁茂等により機能不全に陥っている。市主導で伐採すべきではないか。(1) 県道三田篠山線、小枕地内、美濃坂峠(三国峠)の展望台について。

地域住民と協議の上、里山彩園等事業で協働を促し困難な場合は市が必要な部分を伐採する方向で検討する。

(2) 県道本郷東浜谷線、本郷地内、大たわ峠「おおたわ広場」について。

市管理の樹木のため、市の責任において眺望確保に向けて検討する。

問2 アライグマ等市民捕獲の奨励金は現在4～7月の限定交付だが、通年交付に改めるべきではないか。

個体数を減らすには出産期前後の捕獲も必要のため、交付期間の改定について前向きに検討する。



1. 河川敷の竹林管理について 2. 市営駐車場のあり方について



問1 市内を流れる川の河川敷や法面には、竹が群生する箇所が多くある。林立する竹に枯れた竹が複雑に絡みあうと、大雨の洪水時に水流の圧力で根こそぎ倒れて流れ、橋の橋脚に引っ掛かり、水をせき止め、氾濫の大きな原因になる危険がある。本市が管理する普通河川や県管理の河川における竹林の適正な管理が必要ではないか。

普通河川については、竹林の繁茂状況などを定期的に点検し必要な対策を講じる。篠山川など県管理の河川については、実



効性のある対策を県に要望していく。

問2 市営駐車場条例の改正により利用料金が改定され、7月1日より新たな料金体制となる。しかし、市営駐車場11か所の内、立町と南新町駐車場は機械化されておらず、料金は利用者が所定のボックスに投入するシステムになっている。支払を利用者の良心に委ねることになり、不公正・不公平である。早急に改善すべきでは。

利用者間の不公平を解消し料金回収の透明性を確保するため、機器システム導入は有効である。ただ、整備費用が必要であり、収支状況を見極めつつ検討する。



1. 道の駅整備における市民への理解と広報戦略について 2. 農都のめぐみ米の今後の方向性と農産物ブランドの再構築について



問1 来年3月末に開業予定の道の駅について、市民理解が十分に進んでいないのではないかと。また、アクセス面の不利を補うため、戦略的なPRが必要と考えるが、今後どのように広報・情報発信を行っていくのか。

工事の進捗や開業後の計画等を適時伝えていくとともに、ぬくもりの郷の強みを活かし、“わざわざ行きたくなる”滞在型観光拠点として、SNS等を活用した情報発信と魅力が伝わる広報に取り組んでいく。

問2 農都のめぐみ米の栽培補助金が廃止されたが、生産支援なくしては流通に繋がれない。今後の方向性は。

環境や生きものに配慮した栽培方法に取り組む農家への生産支援は必要と考えるので検討していく。

農都のめぐみ米の認証マークである“カエルマーク”の活用や、市独自の認証制度の創設を考えてはどうか。

農家の皆様の取り組みが見える化でき、農家の誇りや生産意欲につながる支援の仕組みと運用方法について、前向きに検討を進める。

米以外の農産物にも広げブランド展開してはどうか。

将来的なブランド展開を考えて「農都のめぐみ」を商標登録している。調査・研究を進めていきたい。



消防団の持続可能な運営と実践力の確保について



問 消防団は地域防災の中核だが、団員減少や高齢化、若手・子育て世代の負担が課題である。①火災通知の分かりにくさ、②操法大会、③年末警戒、④女性団員、⑤団員定数について、実践力を維持しつつ、参加しやすい消防団へ見直す考えは。

①火災通知は現場が分かりにくい場合があることを出動時の課題と認識し、メール送信システムは改善対応が可能と確認したため、団員が迷わず到着できるよう変更を検討する。②操法大会と年末警戒は消防団長の権限に属するが、操法大会は技術や安全性、規律を学ぶ場であ

り、負担感があることも把握している。大会後に意見を収集し、今後に生かす。③年末警戒は火災予防に加え、防犯や地域との交流にも意義があり、人数基準を設けないなど負担軽減を図っている。④女性団員は啓発活動を担う女性班に加え、一般団員として入団した実績がある。性別で役割を固定せず、地域で活動できるよう環境整備に取り組む。⑤定数は町合併後の協議を経た重みのある数字で、充足率も全国・県平均と比べ高く、直ちに削減を論じるものではないが、機能別団員を含めた団員確保策を検討する。



1. 不登校支援の第0段階支援について 2. いじめに対する子どもの理解促進について



問1 子どもの個々の状況に伴う実態把握や、不登校になる前の支援(0段階支援)や伴走支援の必要性は。

学校復帰だけでなく、社会的自立を支援していく。ICTの授業配信や個別最適な学びについて。

撮影可能な授業はICTで一部対応している。スタディサプリ等も活用し、個別の状況に応じ支援する。

ゆめハウスへの公的な送迎保障や、利用時間の柔軟化を検討できないか。

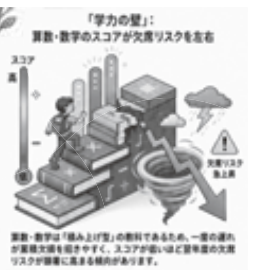
不登校に関しては子どもの状態に応じた多様な支援で対応しているが、通う方法については課題として認識している。

専門家によるチーム対応を強化するため、現在1名体制のスクールソーシャルワーカー(SSW)の増員は。

何名とはいえないが、増員の必要性はあると考えるので検討していく。

問2 いじめの見えにくさや苦しさの把握や、権利条約の子どもたち自身の理解が必要でないか。

権利条約の考え方は学校教育と同じ方向にあり、今後も大切に推進する。



1. 安心して暮らせる地域医療を未来へつなぐために 2. 狭あい道路地域における救急搬送対応力の強化 3. 篠山口駅を通過点・乗換地から農都丹波篠山の目的地に



問1 市民・医療者・行政が地域医療の未来を語り合う場を設けることで医療を守る力が地域に広がる。ともに学び、実践していく機会として「丹波篠山市地域医療未来フォーラム」を開催してはどうか。

令和7年度に丹波篠山市医師会が「医療・介護・地域のつながりで創る未来」をテーマに地域医療講演会を開催された。令和8年度も同様の取り組みを計画されており、医師会と連携し、医療を支える力が市民に浸透し、地域で育まれるように取り組んでいく。

国民健康保険診療所の空白を埋めるため、国が地

域医療の新しい柱と位置づけている「医療MaaS(移動診療車)」の調査・研究・検討を進め、「丹波篠山型巡回医療モデル」をつくり、どこに住んでいても安心して暮らせる地域医療のまちをめざしてはどうか。

地域のかかりつけ医として対面診療の体制を維持することは重要である。しかし、今後、高齢化の進展に伴い、通院が困難になる市民がより増加することが想定される。持続可能な地域医療体制を構築するため、ICTを活用した新たな取り組みが必要になると考えるので、医療MaaSの活用について調査研究していく。

議会報告会で議員と話ませんか

丹波篠山市議会では、議会活動の内容を報告するとともに、市民の皆様からの意見をお聞きし、市政に反映していくことを目的に議会報告会を開催しています。多くの市民に参加していただきたく、「テーマ型」で行います。3会場ともどなたでもご参加いただけますので、ご興味のあるテーマの会場にお越しください。

開催内容 第1部 6月及び9月定例会報告動画・質疑応答

第2部 「各テーマ」についての意見交換（ワークショップ）

出席者 1班 ◎向井千尋、大内正博、野々村康、隅田雅春、安井博幸、原田豊彦（◎は班長）
2班 ◎稲山 悟、桐村裕一、堀毛宏章、渡辺拓道、降矢杏奈、岡 圭子
3班 ◎荒木礼子、金崎美和、本多紀元、小島政行、前田えり子、上田英樹

開催日	会 場	テーマ	担 当
11月4日（水） 19:00～20:30	城東公民館 2階 第1研修室	中学校における部活動の地域展開について	1班 総務文教常任委員会
11月4日（水） 19:00～20:30	四季の森生涯学習センター 東館1階 大会議室	地域農業の将来について ～地域の特性と農業の将来を探る～	3班 産業建設常任委員会
11月11日（水） 19:00～20:30	西紀老人福祉センター 2階 健康教育ホール	これからの地域医療と地域防災 ～将来世代につなぐため～	2班 民生福祉常任委員会

クイズ（118号）の回答

正解は

- 問1 表紙「実りの秋」の木になっていないものは？ ③メロン
問2 「ふれあい子ども議会教室」の参加対象の学年は？ ③5・6年
問3 公共交通デマンドバスの名称は？ ②のり～な

→抽選は広報広聴常任委員会
で実施しました。



正解者の中から当選15名の抽選を厳正に行いました。
当選者の発表は図書カードの発送をもってかえさせていただきます。

クイズの応募に際し、お寄せいただいたご意見ご感想等は、貴重なご提言として、より良い「議会だより」の発行に繋げてまいります。ありがとうございました。

応募いただいた際の個人情報については、目的以外に一切使用しません。

受理した陳情を市長に申し入れ

■みそら台団地入口の進入路工事に関する陳情

丸久保 仁

本市議会宛に、1件の陳情書をいただきました。上記の陳情書については、適切に対応されるよう市長に申し入れました。

議員研修で得た学びを市政へ

5月28日に、(株)廣瀬行政研究所の講師を招き、「適正な議員の定数について」の研修を行いました。議員研修で得た知見を今後の議会活動や市政への提言にしっかりと活かしてまいります。



降矢 杏奈

1. 選ばれるスポーツ拠点を整備し、地域活性化へ
2. 地域防災力強化「女性消防団のあり方」について
3. 保育・学童の利用保留者の解消を



問1 スポーツ拠点を市の財政負担を抑えつつ地域活性化を図る「PFI方式」などの民間活力の導入、また市民の利便性向上を目指すため、民間から広く提案を募る「サウンディング型市場調査」を導入してはどうか。

財政負担を抑えられる観点から将来的に民間活力を活かせる可能性はあるため、調査研究を進める。

問2 女性消防団員の「活動選択制」の導入や、これまでの枠組みにとらわれない、男性・女性団員の役割分担や活動体制の構築を。

今後は、希望や適性を活かしながら、無理なく柔軟に

活動できるよう努めていく。また消火等を含めた研修を実施し、活動体制を構築していく。

問3 保育・学童の利用調整の仕組みにオンライン申請を導入してはどうか。

令和9年度の入園申し込みから、オンライン申請を取り入れ、効率的な入所マッチングを行っていきけるように進めていく。



小島 政行

1. 子どもの安全対策について
2. 丹波篠山市の人口減少時代の自治体経営について



問1 高齢者を対象とするGPS購入費補助事業を子どもの見守り対策にも活用し、まずは小学1年生を対象に検証してはどうか。また、「ふるさと納税型クラウドファンディング」を活用して財源確保してはどうか。

他自治体の事例や経費等も踏まえ、安全な登下校について総合的に考える中で研究していきたい。

問2 公共施設の再編を単なる削減ではなく、地域の未来づくりとしてどのように進めていくのかを問う。

令和7年度から本格的に財政持続的発展計画の見直しに取り組んでおり、公共施設の見直しや将来の方向性を

検討している。

今後は農村維持＝地域対策ではなく、農村維持＝市の基幹戦略として位置付けが必要ではないか。

本市の良さを維持していくことが丹波篠山のブランド戦略そのものと考えている。丹波篠山市がこれからも未来へつながる取り組みを大きな命題として進めていく。

任期の最終年度を迎えるにあたっての決意を問う。

観光や若い移住者の増加などの良い流れを活かし、美しい農村が未来へつながる取り組みを更に進めていきたいと考えている。

全国市議会議長会から表彰

向井千尋議員、安井博幸議員は10年にわたり丹波篠山市議会議員として市政の振興に努めた功績が認められ、全国市議会議長会から表彰状を授与されました。また、上田英樹議長に対し、全国市議会議長会評議員、全国市議会議長会「国と地方の協議の場等に関する特別委員会」副委員長として会務運営の重責にあたられた功績が認められ、同団体から感謝状が授与されました。

表彰状及び感謝状は、去る6月2日の本会議終了後、議場で伝達されました。

